国・県・市 年頭所感

世界で輝く佐賀を目指して

佐賀県知事　山口　祥義

この3月、食のアカデミー賞と称される「アジアベストレストラン50」が日本で初めて、佐賀で開催されます。

桜が花開き、稲作が始まるこの季節。佐賀の食材で振る舞うこのイベントは、アジア諸国から集う気鋭の料理人たちにとっても、日本の美しい四季や旬を感じられる場となるはずです。

食を通じて多様な人々がつながるこの機会が、佐賀の魅力を世界に発信するとともに、アジアや世界とつながりながら、美しい地球の環境を考える契機ともなることを期待しています。

実りを支える思い、器に込められた思い、もてなしの思い。温かな思いの重なりこそが、日々の暮らしを豊かにしていくのだと思います。

今年も幸せであるようにと料理をしつらえ、家族や仲間と団らんする――。

そんな穏やかな光景がいつまでも続くようにと心から願い、今年も視野を広く持ち、新しい年を進んでまいります。

昨年8月の「令和元年佐賀豪雨」では、県内外の多くの方々からご支援を賜りましたことを心から感謝申し上げます。

穏やかな気候に恵まれた佐賀にとって、今回の災害は未曾有ともいえるものであり、私たちに大切な教訓を思い出させました。

私たちは自然の中に生かされていること。自然と人が共生する地域社会をつくり、未来へしっかりとつないでいくという思いをあらたにしました。

今年は「吉野ヶ里遺跡」の国史跡指定から30年の節目にあたります。

太古の時代、アジア大陸から日本へと伝来した稲作は九州北部で始まり、人々はこの地にしっかりとその文化を根付かせてきました。

吉野ヶ里遺跡の広大さはそのことを物語っており、後の歴史においても、茶栽培の発祥地となった脊振山や、日本磁器を生んだ有田など、佐賀は食の先進地として、大陸文化をこの地に融合させ、発展させてきました。

2つの海の恵みを受け、清麗な水を湛える山々に囲まれ、肥沃な平野が広がる佐賀は、「肥前風土記」に記されたとおり、まさに「栄の国」なのです。

安全安心の確保と社会資本整備の推進を

佐賀県県土整備部長　逢坂　謙志

令和2年の新しい年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

皆様方におかれましては、本県の社会資本整備につきまして、深いご理解とご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

近年、自然災害は局地化・激甚化の傾向が顕著となっており、佐賀県でも昨年8月27日に局地的に非常に激しい雨が降り、低平地という地理的特性のある本県において、極めて広範囲にわたり家屋等が浸水するなど、これまでに経験したことのない大規模な災害となりました。

このことを踏まえ、特に被害が大きかった六角川水系では、国、県、市町等で構成する「令和元年8月六角川水系の水害を踏まえた防災・減災対策協議会」で今回の豪雨災害を検証し、「六角川水系緊急治水対策プロジェクト」を取りまとめております。

また、県内各地で発生した土砂災害については、災害関連緊急砂防事業等の事業採択を受けるなど、防災・減災対策に取り組んでいるところです。

県は、これまでも国の「防災・減災、国土強靭化のための3か年緊急対策」により、道路法面の崩壊防止対策や河川の堤防強化等を進めており、また、市町の国土強靭化地域計画策定を支援するなど、ハード・ソフト両面からしっかりと対応してまいります。

これらの取組を進めるに当たって、昨年の災害時に活躍された建設業者の役割はますます重要になっており、県では、建設業の労働環境改善のため、施工時期の平準化や週休2日制、ICTの活用による業務の効率化に取り組むとともに、高校生を対象とした合同企業説明会や建設業の若手就業者との意見交換会を開催するなど、引き続き県内建設業の担い手確保に努めてまいります。

今後とも皆様方の一層のご支援とご協力をお願い申し上げ、また、本年が皆様方にとってより良き年でありますよう祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

国スポに向け駅周辺の整備推進

佐賀市長　秀島　敏行

あけましておめでとうございます。

皆様には、希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、8月末に佐賀市を豪雨が襲い、3400戸もの住宅や店舗等が浸水被害を受けました。被災された皆様方には、心からお見舞いを申し上げます。今回の災害を受け、これまで長年取り組んできた防災事業に加え、「国土強靭化地域計画」を早急に取りまとめ、災害に強いまちづくりに努めてまいります。

さて、今年は現在策定中の「佐賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略」をもとに様々な施策を展開していきたいと考えています。

具体的には、不妊治療の支援対象の拡大や、保育所や放課後児童クラブの待機児童の解消により子育て環境の充実を図ります。また、3年後に迫った国民スポーツ大会等に向けて佐賀駅周辺の整備や、大和町東山田地区の工業団地の造成に着手するほか、マイクロソフトAI&イノベーションセンターによるテレワークの推進やAI技術活用の検討を始めます。

さて、公共事業関連に目を向けますと、市内においては2つの地域高規格道路の整備が着々と進められております。現在、有明海沿岸道路におきましては、早津江川橋及び諸富高架橋の整備や、諸富地区における改良工事、川副地区等で用地買収が進められているところです。令和2年度には福岡県側の大野島インターチェンジまで、令和4年度には佐賀県側の（仮）諸富インターチェンジまでの区間が開通予定となっており、有明海沿岸道路における福岡県と佐賀県の接続が間近となっております。また、佐賀唐津道路（佐賀道路）におきましては、詳細設計等が進められております。これらの道路の一日も早い完成に向けて、国や県と協力して推進してまいりたいと考えております。

今年一年が、皆様にとりまして明るく幸多き年になりますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。